

## シラバス確認

シラバス入力 &gt; シラバス確認

印刷する

更新

開講年度 Academic year	2025年度		
講義コード Course title (Japanese)	OF2002101		
講義名 Course title (Japanese)	憲法 I (総論・人権)		
英文講義名 Course title (English)	Constitutional Law I (Human Rights)		
(副題) Course subtitle	〔法学部専門科目〕		
開講責任部署 Faculty			
講義開講時期 Semester (s)	後期	講義区分 Type	講義
単位数 Credit hour (s)	4	時間 Total hours	0.00
代表曜日 Day	月曜日	時限 Period	1 時限
校地 Campus	本キャンパス(駅東通り)		

所属名称	ナンバリングコード
	L1-PUL101LJ

担当教員 Lecturer (s)			
職種 (専任教員・非常勤教員) Position (Full-time/Part-time)	担当教員名 Lecturer (s)	実務経験の有無 Work experience	所属学部 Department
専任教員	◎ 棟久 敬		法律学科

授業の内容 (主題) Course description	憲法の総論・人権論について、その歴史や理念を踏まえ、諸外国の憲法とも比較しながら、日本の判例と学説について解説します。まず、憲法の意義や理論、歴史など、憲法総論についての講義を行い、そのあとで人権論についての講義を行います。
到達目標 Course objectives	日本国憲法の拠って立つ基本的な理念、基本的人権の歴史と現在の到達点について、学説や判例を踏まえて理解できるようになること。現代の憲法問題について、講義で学んだことを踏まえて自らの力で考察することができるようになること。

ディプロマポリシーとの関連 Accordance with diploma policy
---

◎ : 非常に強く関連する  
○ : 強く関連する  
△ : 関連する  
空欄 : 該当しない

①二十一世紀の社会の発展と地域の産業、経済、文化等の活性化に貢献できる能力	○
②激変する国際社会の中であって、十分な異文化理解のもとに、長期的で広い視野に立って将来を展望し、行動できる能力	◎
③本格的な高度情報社会において、最新の情報を的確に入手し、それを有効に活用したうえで効果的に情報を発信できる能力	○
④自らの判断、努力と責任に基づいて、社会に積極的に貢献できる豊かな教養と柔軟な思考力	◎

授業計画表 Course plan
----------------------

回 Class sessions	内容 Topics	予習・復習 Expected work outside of class
第1回	イントロダクション 教科書を用いて予習、復習を行う（4時間程度）	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第2回	憲法の意義と立憲主義	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第3回	日本憲法史	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第4回	基本的人権の意味と歴史	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第5回	基本的人権の享有主体性	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第6回	基本的人権の射程①—特別な法律関係における人権	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第7回	基本的人権の射程②—私人間における人権	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第8回	基本的人権の限界	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第9回	個人の尊重・幸福追求権	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第10回	法の下での平等①—平等の意味と審査基準	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第11回	法の下での平等②—平等をめぐる諸問題	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第12回	法の下での平等③—家族と平等	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第13回	思想・良心の自由	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第14回	信教の自由	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第15回	政教分離原則	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第16回	表現の自由①—総論	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第17回	表現の自由②—各論（1）表現の自由の規制	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第18回	表現の自由③—各論（2）知る権利・マスメディアの自由、通信の秘密	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第19回	集会・結社の自由	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第20回	学問の自由	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第21回	人身の自由と適正手続の保障①—総論	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第22回	人身の自由と適正手続の保障②—各論：刑事手続における権利、残虐な刑罰の禁止	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第23回	経済的自由①—居住・移転の自由	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第24回	経済的自由②—財産権	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第25回	社会権①—生存権	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第26回	社会権②—教育を受ける権利	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第27回	社会権③—勤労の権利・労働基本権	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第28回	国務請求権	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）
第29回	参政権	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。（4時間程度）

第30回	まとめ	教科書を読み予習し、授業ノート及び教科書を用いて復習する。(4時間程度)				
授業計画コメント Course outline	憲法総論・人権論の講義です。まず、総論(憲法概念、歴史)についての講義を行い、次に人権論(総論・各論)の順に講義を進めていきます。人権各論が大きな比重を占めますが、憲法総論や人権総論で学んだ基本原理に常に立ち返って講義を進めていきます。					
授業の進め方 Session plan	レジュメを配布し、講義形式で進めていきます。教科書と最新版の六法を用意してください(なお、条文を暗記する必要はありません)。一方通行で講義を行うと、学生の理解度を測るのは難しいので、発言を求めています。判例については、教科書の記載に倣うほか、掲載されていないものはこちらで用意します。					
アクティブラーニング Active learning	発言をしてもらった場合、その場または次の講義で講評を行います。質問があった場合、次の講義において回答します。一方通行で講義を行うと、学生の理解度を測るのは難しいので、質問を積極的にしていただきたいと思いません。					
授業時間外の学修(予習・復習等) Preparation and review outside classroom hours	予習: 事前に教科書の指定された箇所とWebClassにて配布する資料を読んでおく。また、資料を見てわからない点や、教員に質問したい点があればメモを作成しておく。(2時間) 復習: 講義の内容を整理し、必要に応じて判例や参考文献を参照する。(2時間)					
教科書等 Textbooks and materials						
	タイトル Title	著者名 Author(s)	出版社 Publisher	出版年 Year of Publication	価格 Price	ISBN
1	憲法〔第8版〕	芦部信喜(高橋和之補訂)	岩波書店	2023	3400円+税	978-4-00-061607-2
2						
3						
4						
5						
(必ず購入すべきもの) Materials required for sessions	教科書: 芦部信喜(高橋和之補訂)『憲法 第8版』岩波書店(2023年) なお、最新版の小型六法を用意しておくこと。					
参考図書 Reference book(s)	渡辺康行・穴戸常寿・松本和彦・工藤達朗『憲法I 基本権〔第2版〕』(日本評論社、2023年) 只野雅人・松田浩編『現代憲法入門〔第2版〕』(法律文化社、2025年) 長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選I、II〔第7版〕』(有斐閣、2019年) 上田健介・尾形健・片桐直人『憲法判例50!〔第3版〕』(有斐閣、2023年) その他、適宜指示します。					
成績評価方法および評価基準 Evaluation criteria						
	定期試験 Tests	授業内小試験 In-class quizzes	レポート・課題 Reports/Assignments	受講態度 Class Attitude		
評価比率% Evaluation ratio	100%	0%	0%	0%		
成績評価の方法に関する注意点 Assessment criteria	定期試験により成績評価を行います(なお、授業への積極的な参加が前提となります)。					
課題のフィードバック Feedback	質問や講義の際に学生に発言してもらった事項について、適宜応答します。					
学生へのメッセージ(履修上の心得) Message to students(class guidelines)	1年次の専門必修科目です。この講義で学習することは、今後学生の皆さんが学習していく実定法科目の基礎となるものです。この講義での学びを通して、しっかりと基礎を固めてください。それは、単に憲法の知識を習得し、他の実定法科目の基礎固めをするということだけでなく、法学部での学習の基礎を固めるということも意味します。  以上のことを踏まえて、講義に臨んでください。					
科目のレベル、前提科目など Level / Prerequisites	憲法II(統治機構)とあわせて履修すると、憲法の全体像を理解できると思います。1年次の必修科目ですので、前提とする科目はありませんが、高校までの社会科の知識があった方が良いでしょう。					
オフィスアワー/学生からの連絡方法 Office hours/Contact Information	授業の前後に短時間(概ね10分以内)であれば適宜受け付けます。それ以外は電子メールで問い合わせてください。					
キーワード Keyword(s)	憲法 立憲主義 憲法史 基本的人権 幸福追求権 平等 精神的自由 経済的自由 人身の自由 社会権 国務請求権 参政権					

